ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

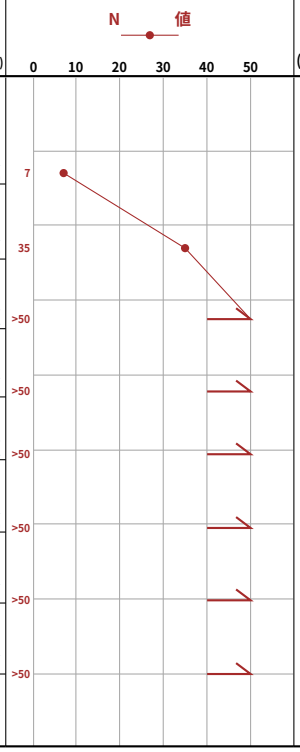
シートNO.

ボーリング名	B-No.2（STA.No.2+15L）	調査位置		北　緯	36 ° 44 ’ 36.6000 ”
発 注 機 関	栃木県日光土木事務所 道路部　道路保全課	調査期間	2008-06-09 ～ 2008-06-10	東　経	139 ° 30 ’ 59.0000 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔 口 標 高	1010.36 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 15.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具
総 掘 進 長	8.01 m								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	1010.16	0.20	0.20		有機質シルト (MO)	黒褐		軟らかい	含水量やや多い。植物根混入。		
1					火山砂礫 (GS)	暗褐	緩い		0.60mコンクリート塊混入 φ20～40mmの亜円火山礫主体。 礫間は粒径不均一な砂と少量の粘土。 全体的に緩く，崩壊著しい。		
	1008.36	1.80	2.00								
2					火山砂礫 (GS)	灰～淡灰	非常に密な		[2.70]φ20～40mm程度の亜円火山礫が主体。 φ100～300mm(コア長L=30～100mmの3倍程度として推定)の転石が混じる [4.50]礫間は粒径不均質な火山砂と少量の粘土。 [5.00]3.30m付近まで火山砂が多く混入。 [6.00]3.60m付近に玉石点在。 4.95m以深は礫分がやや多く密な状態である。 [7.00]孔壁の自立性は高い。		
3											
4											
5											
6											
7											
8	1002.35	6.01	8.01								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	3	2	2	7／30	7
1.45					
2.15	10	11	14	35／30	35
2.45					
3.15	15	25	10／4	50／24	>50
3.39					
4.15	32	18／5		50／15	>50
4.30					
5.00	40	10／4		50／14	>50
5.14					
6.00	50			50／10	>50
6.10					
7.00	50／5			50／5	>50
7.05					
8.00	50／1			50／1	>50
8.01					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						06/09
						06/10